

ぎふ経済レポート



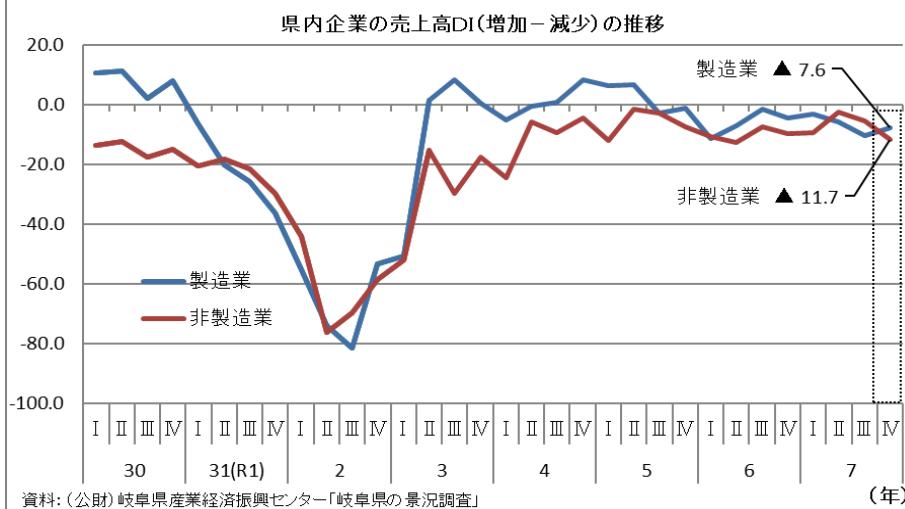
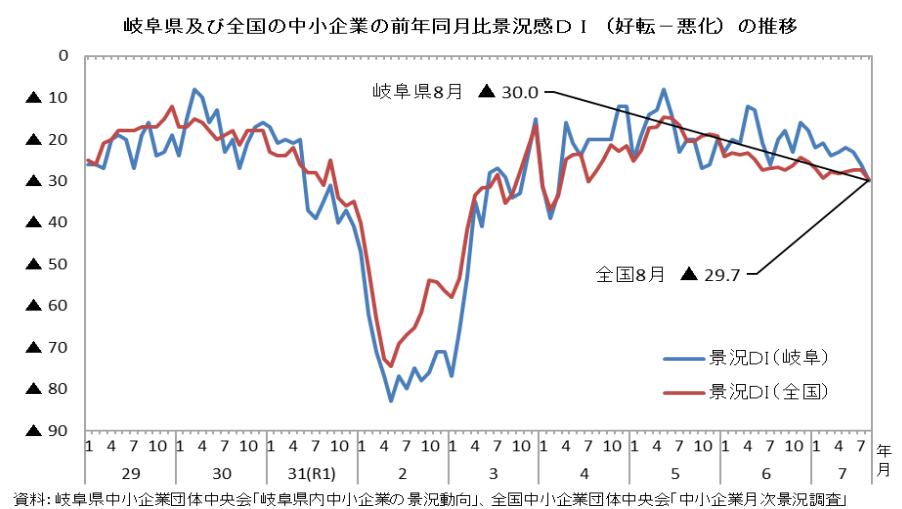
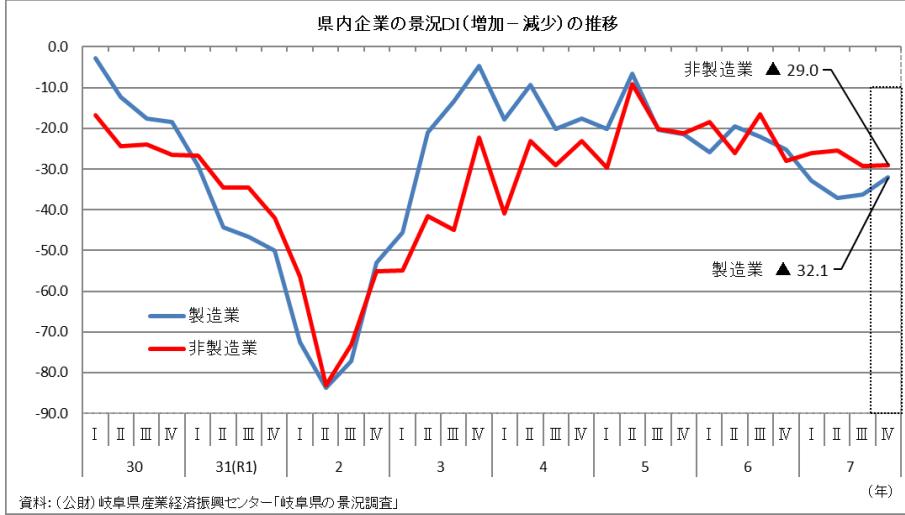
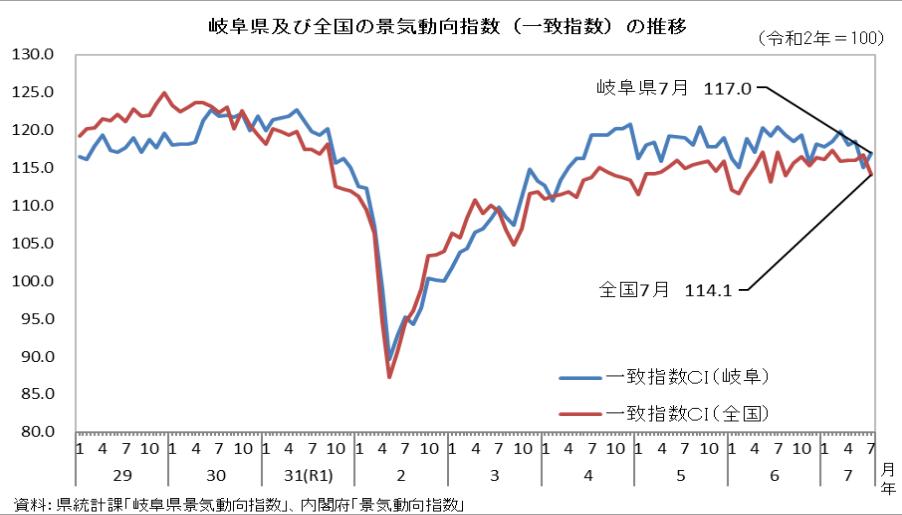
令和7年9月分
岐阜県商工労働部

※企業等へのヒアリングは9月24日～26日を中心に実施し、10月28日時点で作成。

景気動向

- 7月の景気動向指数(一致指数)は、117.0で前月比2.0ポイント上昇となった。
- 8月の県内中小企業の景況感は、▲30.0で前月比▲4.0ポイントとなった。

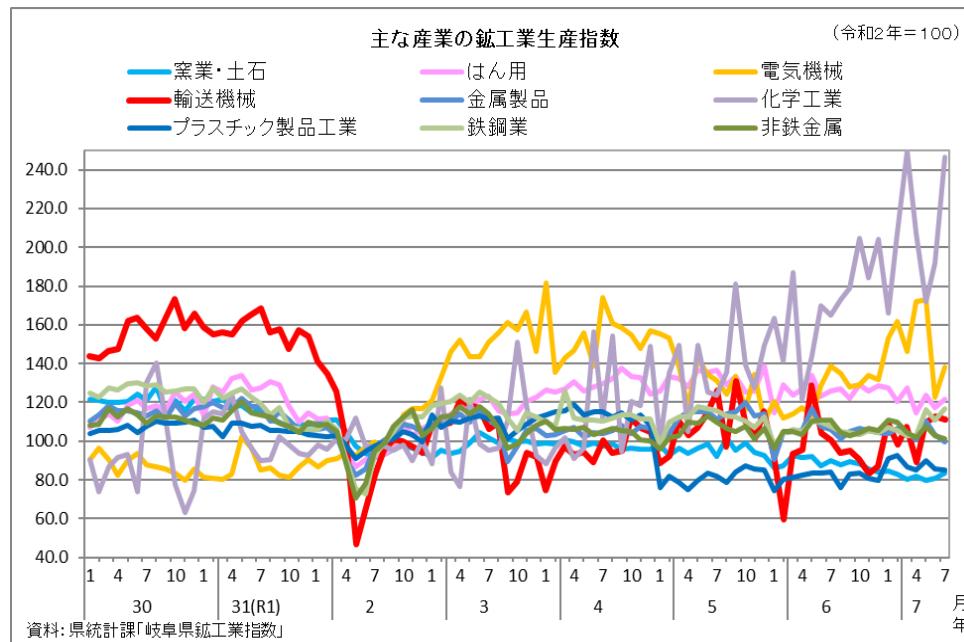
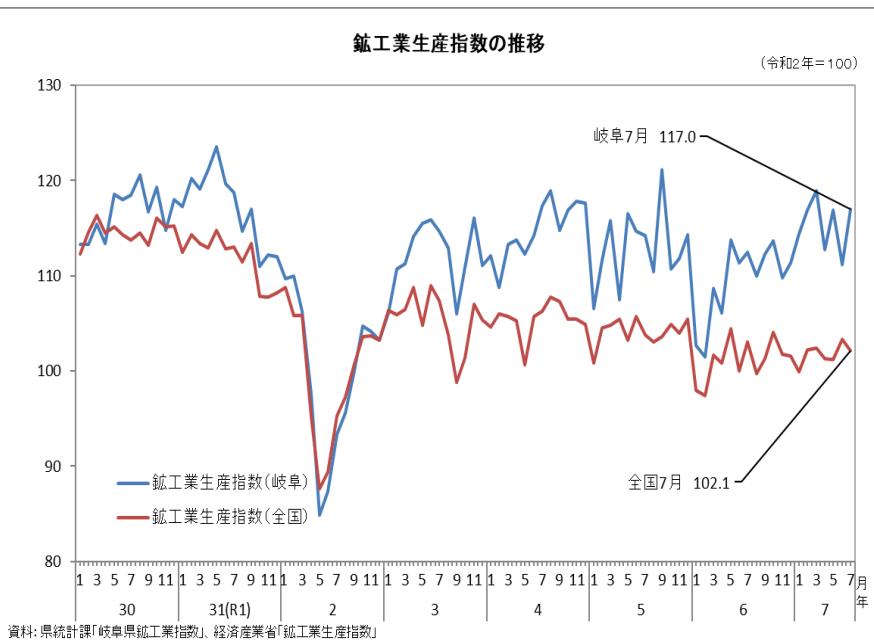
- 10-12月期の景況DI見通しは、製造業で前期比4.2ポイント、非製造業で同0.2ポイント上昇なった。売上高DI見通しは、製造業で前期比▲7.6ポイント、非製造業で同▲11.7ポイントとなった。



製造業

- 7月の県内鉱工業生産指数(季節調整済)は、117.0で前月比5.2%と2ヶ月ぶりに前年同月を上回った。
- 7月の全国の鉱工業生産指数(季節調整済)は、102.1で前月比▲1.2%と2ヶ月ぶりに前年同月を下回った。

○7月の主な産業の指数は、化学工業で前月比28.4%、電気機械で同13.0%、鉄鋼業で同5.8%、はん用で同3.8%、窯業・土石で同3.5%上昇となった。一方で、金属製品で同▲3.5%、非鉄金属で同▲1.8%、輸送機械で同▲1.3%、プラスチック製品工業で同▲0.6%となった。



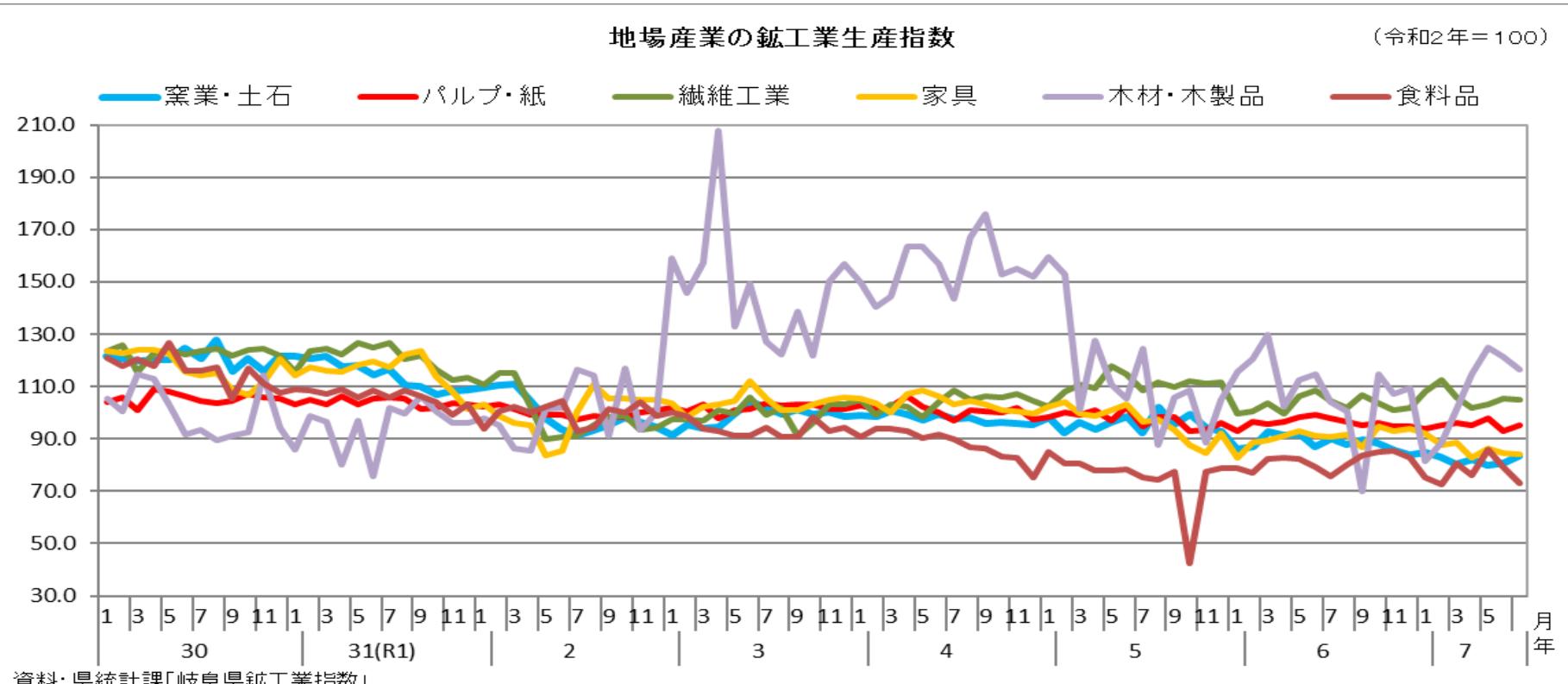
現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 中国向けの出荷減少が続いている。10~11月は更に売上を落とす。(輸送用機械器具)
- ◆ 自動車用ショックアブソーバーに関しては、出荷量が減少しているものの、為替レートの影響で増収となっている。(輸送用機械器具)
- ◆ 昨年度の値上げ分が売上に計上されて増益となり、引き続き緩やかな上昇傾向にある。(輸送用機械器具)
- ◆ 業界内にサプライヤーの数をまとめていく動きがある。自社は他社からの切り替え需要により、新規品の受注が増えている。(非鉄金属)

製造業－2

○7月の地場産業(刃物を除く)の鉱工業生産指数は、窯業・土石で前月比3.5%、パルプ・紙で同2.7%上昇した一方で、食料品で同▲7.7%、木材・木製品で同▲3.9%、繊維工業で同▲0.7%、家具で同▲0.1%となった。



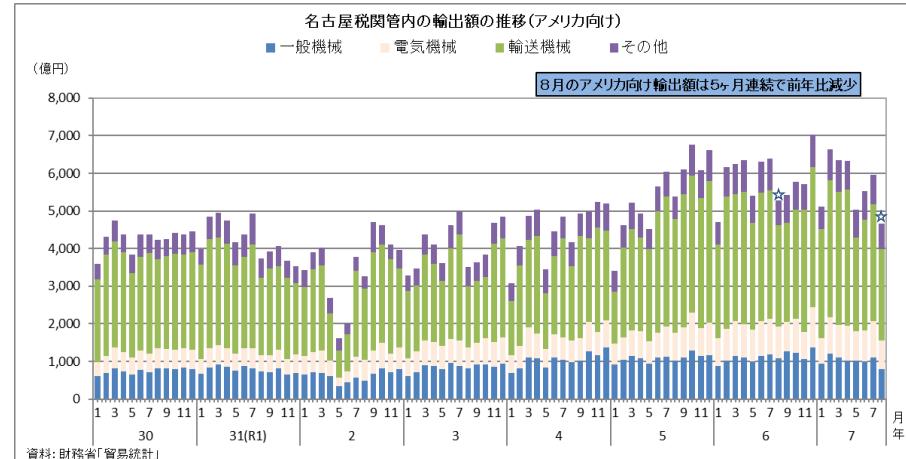
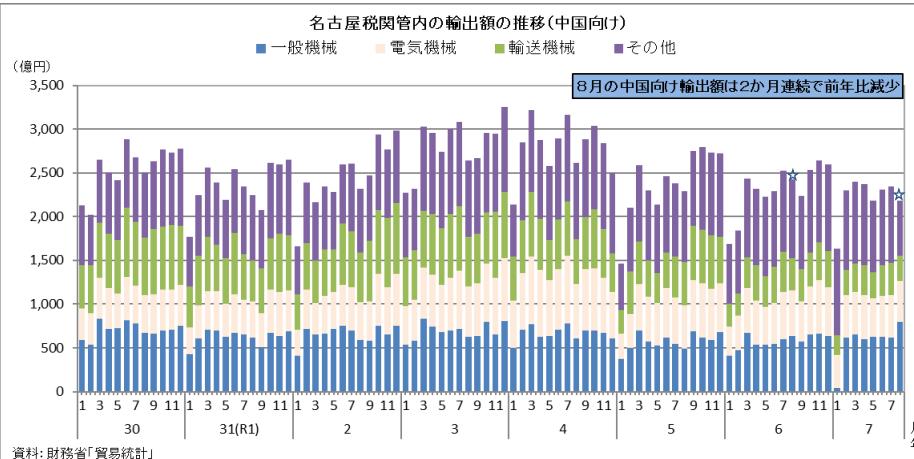
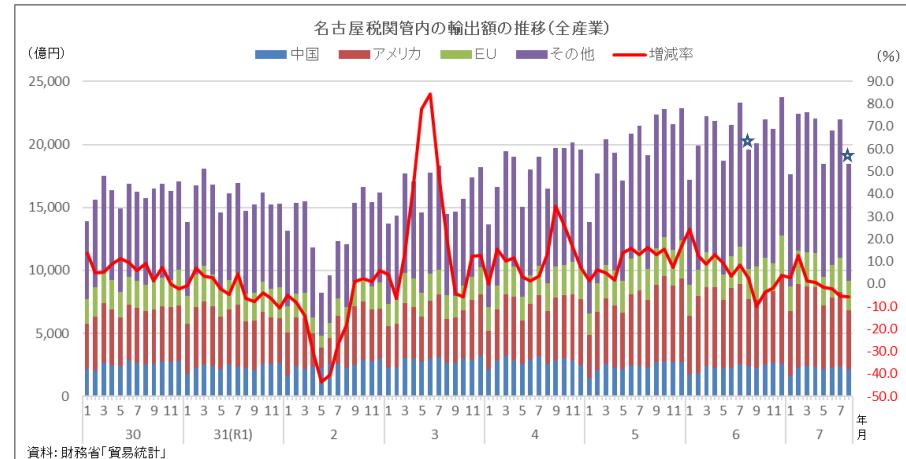
現場の動き

(※原油・原材料高騰、海外情勢等に伴う経済変動の影響はP6にも掲載)

- ◆ 小売店が少なくなってきたことから卸先が減り、売上が減少していることに加え、円安の影響で原材料が高騰し利益を圧迫している。(繊維・アパレル)
- ◆ 国内需要は減りつつあるが、インバウンド需要の高まりや海外輸出の増加が続き、売上としてはほぼ横ばい。(刃物)
- ◆ OEMの受注減少を大きな要因として、売上は減少している。(木工)

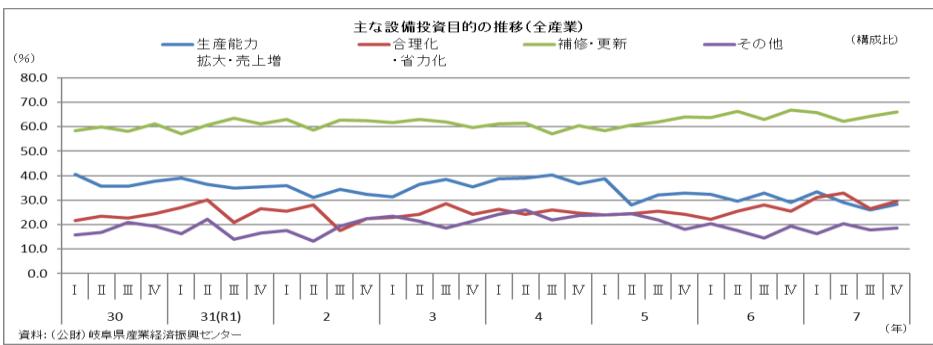
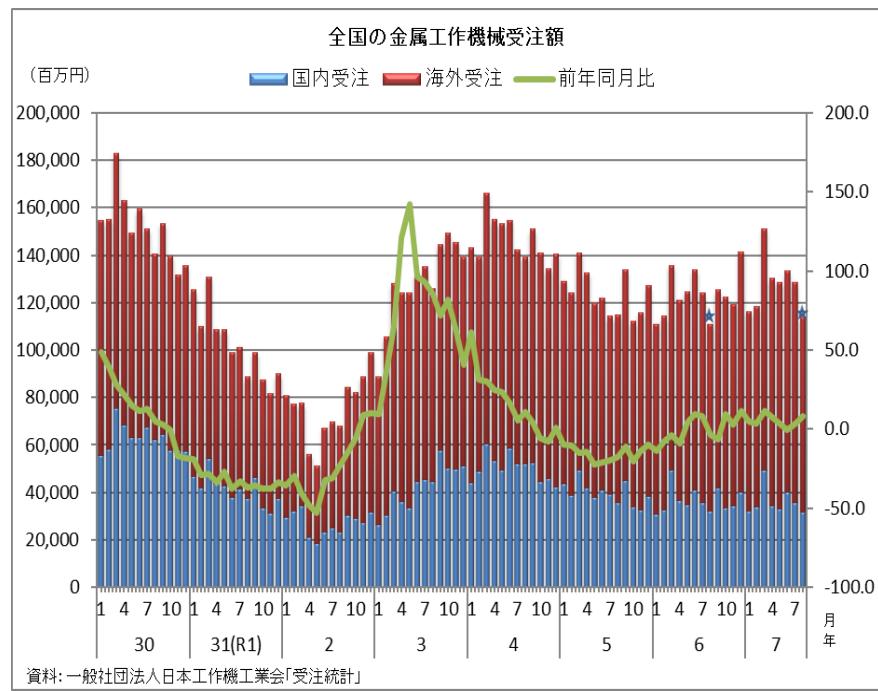
輸出(名古屋税關管内)

- 8月の輸出額(全国)は、8兆4, 258億円で前年同月▲0. 1%となった。
 - 8月の輸出額(名古屋税関内)は、1兆8, 479億円で前年同月比▲5. 7%となり、4ヶ月連続で前年同月を下回った。
 - 中国向けは、全体で前年同月比▲9. 9%となった。その内、一般機械で同25. 1%増加した一方で、輸送機械で同▲20. 8%、電気機械で同▲10. 2%となった。
 - アメリカ向けは、全体で前年同月比▲11. 8%となった。その内、一般機械で同▲27. 0%、輸送機械で同▲10. 2%、電気機械で同▲7. 8%となった。



設備投資

- 10-12月期の設備投資実施見通しは前期比▲2.4ポイント、設備投資意欲DI見通しは同0.4ポイント上昇となった。設備投資実施見通しの目的別では、「合理化・省力化」で前期比3.0ポイント、「生産能力拡大・売上増」で同2.4ポイント、「補修・更新」で同1.8ポイント上昇となった。
- 8月の全国の金属工作機械受注額は、全体では前年同月比8.1%増加と2ヶ月連続で前年を上回った。内訳は海外受注は同4.3%増加と11ヶ月連続で前年同月を上回り、国内受注は同▲1.4%となった。



現場の動き

- ◆ 東海環状自動車道 本巣IC～大野神戸IC間開通により、運送業において倉庫新設や店舗移転等の動きが見られる。(金融機関)
- ◆ コロナ期に先送りした各種保守や機材更新について待ったなしとなっているものが多く、限られた予算の中でどこまで出来るのかが課題。(輸送用機械)
- ◆ 新しい品目の生産のために成型機の購入を進めている。(生産用機械器具)

為替・原油・原材料価格の動向に伴う経済変動の影響について

- ◆ 材料費は落ち着いているが、為替相場については円安が続いており、ドルベースで取引する海外の顧客からは価格の見直し要求がきている。(非鉄金属)
- ◆ 円安の影響による原材料の高騰で利益を圧迫している。(繊維・アパレル)
- ◆ 原材料費は上がり続けているが、価格転嫁は15%程度に留まっている。(刃物)

米国による関税措置について

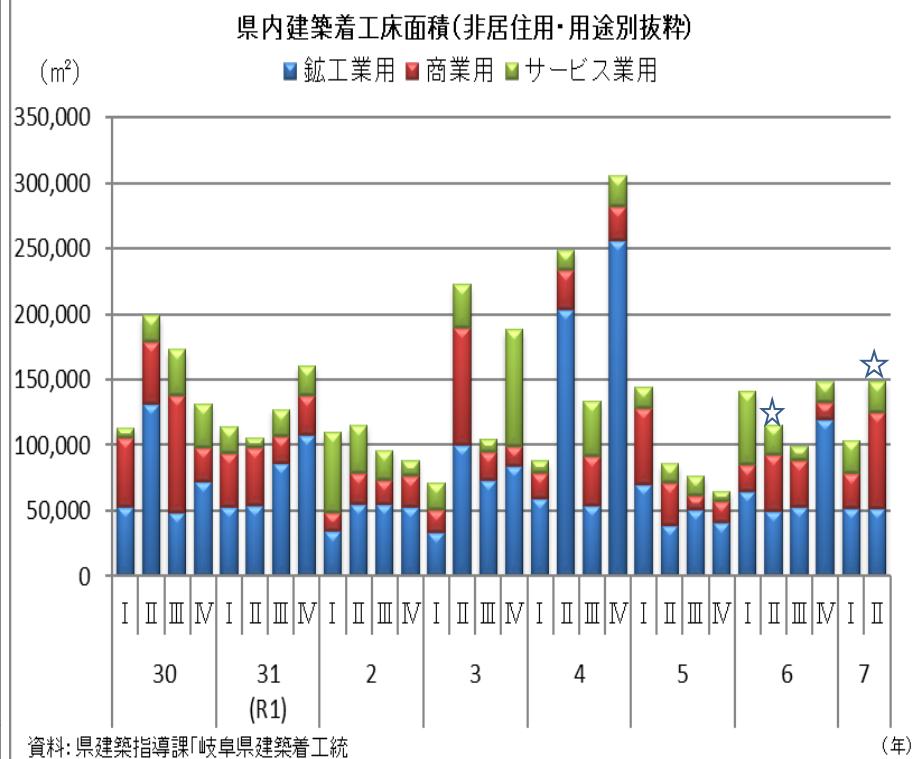
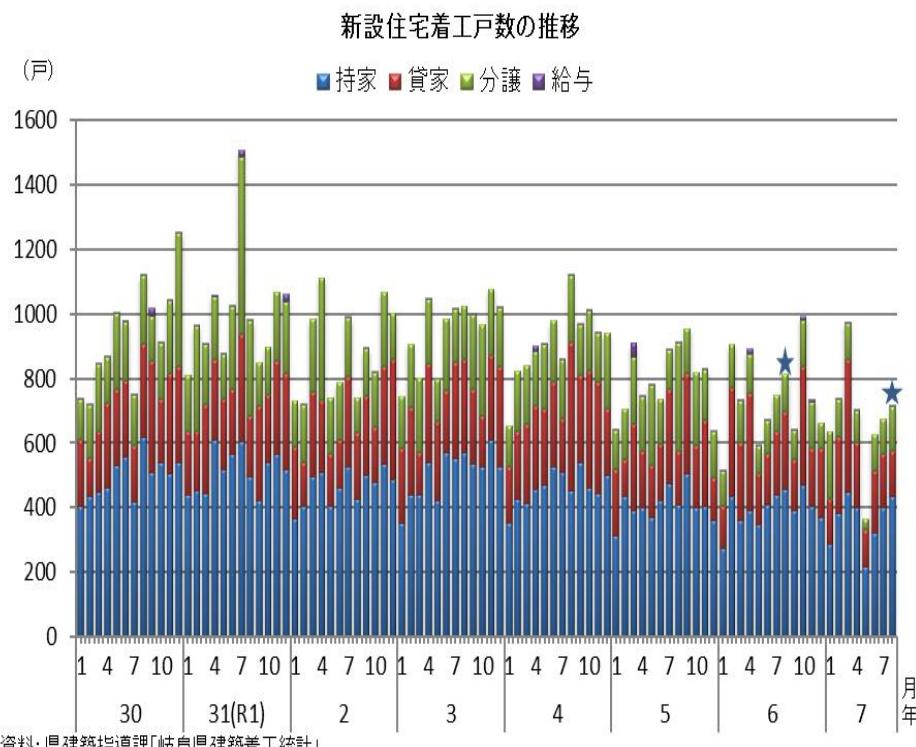
- ◆ 大手自動車メーカーには影響があるが、当社までは特段影響がない状態が続いている。(輸送用機械器具)
- ◆ 大手自動車メーカーが関税問題に対する態度を明らかにしていないため、ティア1メーカー以下は動きが取れない状況。(輸送用機械器具)
- ◆ トランプ関税が正式に発動され、今までの様子見に伴う生産調整からの回復が見込まれ受注量は徐々に元に戻る見通し。(生産用機械器具)
- ◆ 米国に多く輸出をしていると関税の影響を大きく受けてしまうため、輸出先の分散化を検討している。(刃物)
- ◆ 特に製造業から影響を懸念する声は聞こえるが、現時点で資金調達案件にまで結びついているものはない。(金融機関)

住宅・建築投資

○8月の住宅着工戸数は、前年同月比▲12.1%となった。

○分譲で前年同月比19.1%増加した一方で、貸家で同▲40.6%、持家で同▲5.3%となった。

○4-6月期の非居住用の建築着工床面積は、商業用で前年同期比71.1%、鉱工業用で同4.9%、サービス業用で同1.3%上昇となり、全体で同28.5%上昇となった。

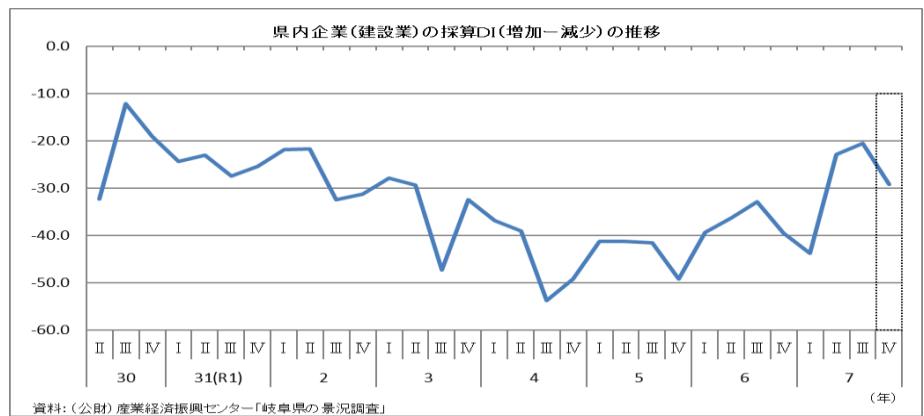
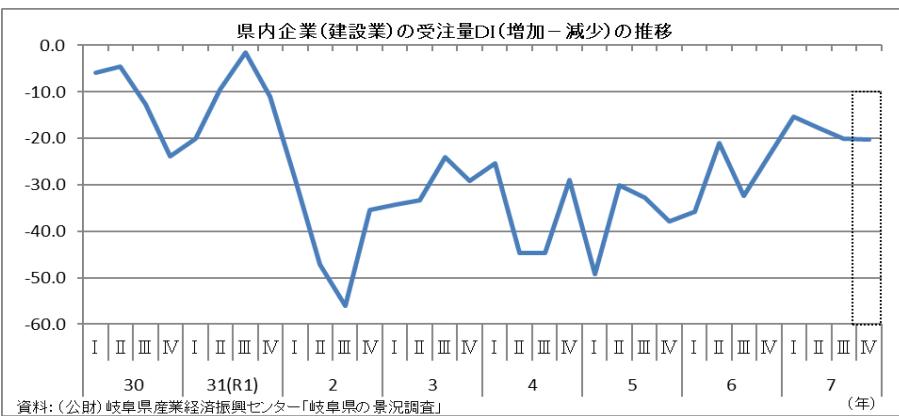
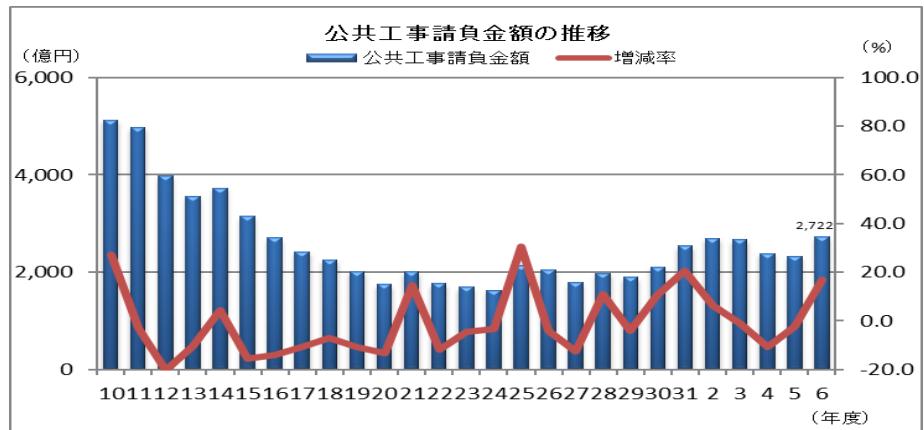
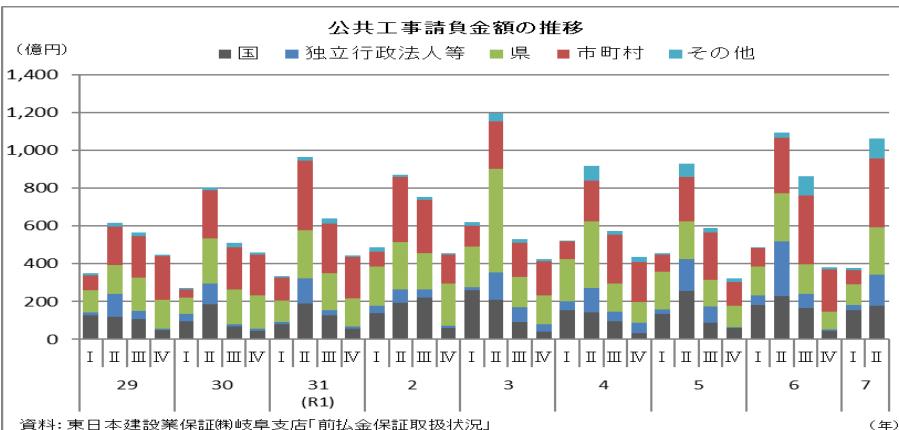


現場の動き

- ◆ 物価高の影響などから集客数自体が落ちている。また、相談客は契約に至らず、コストの観点から他社への契約に流れる傾向にある。(住宅)
- ◆ 米国が関税を引き上げたことで、外材の輸入量の変化や今後の木材価格にどのような影響を与えるか注視している。(卸売)
- ◆ 入荷も少ないが出荷が予想以上に少なく、在庫は全体的に横ばいか微増に留まっている。(卸売)

建設工事

- 4-6月期の発注者別の公共工事請負金額は、独立行政法人等で前年同期比▲43.7%、国で同▲22.0%、県で同▲0.2%となり、全体で同▲0.8%となった。
- 県内建設業の10-12月期の受注量DI見通しは前期比▲0.3ポイントとなり、同採算DI見通しは同▲0.5ポイントとなった。



現場の動き

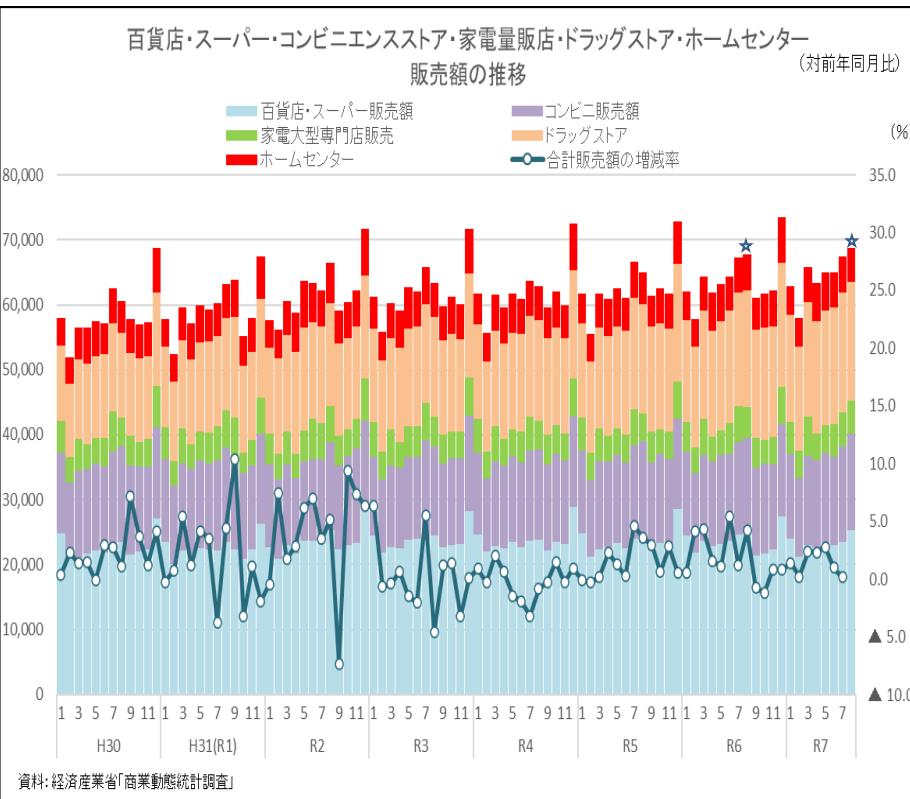
- ◆ 土木部門では職員が不足しており、新たな仕事に挑戦できず、来期の受注量確保が課題。建築部門では仕事量は多いが配置職員が不足し、受注のための工期設定、調整が課題。

(以上、建設)

個人消費(流通・小売)

○8月は家電大型専門店で前年同月比3.9%、百貨店・スーパーで同2.5%、ドラッグストアで同2.1%、コンビニで同0.7%上昇した一方で、ホームセンターで同▲5.3%となり、全体で同1.5%上昇となった。

○8月の新車販売台数(除く軽)は、前年同月比▲15.1%と3ヶ月連続で前年同月を下回った。軽自動車は同▲2.0%と2ヶ月連続で前年同月を下回った。合算では同▲10.7%と、前年同月を2ヶ月連続で下回った。



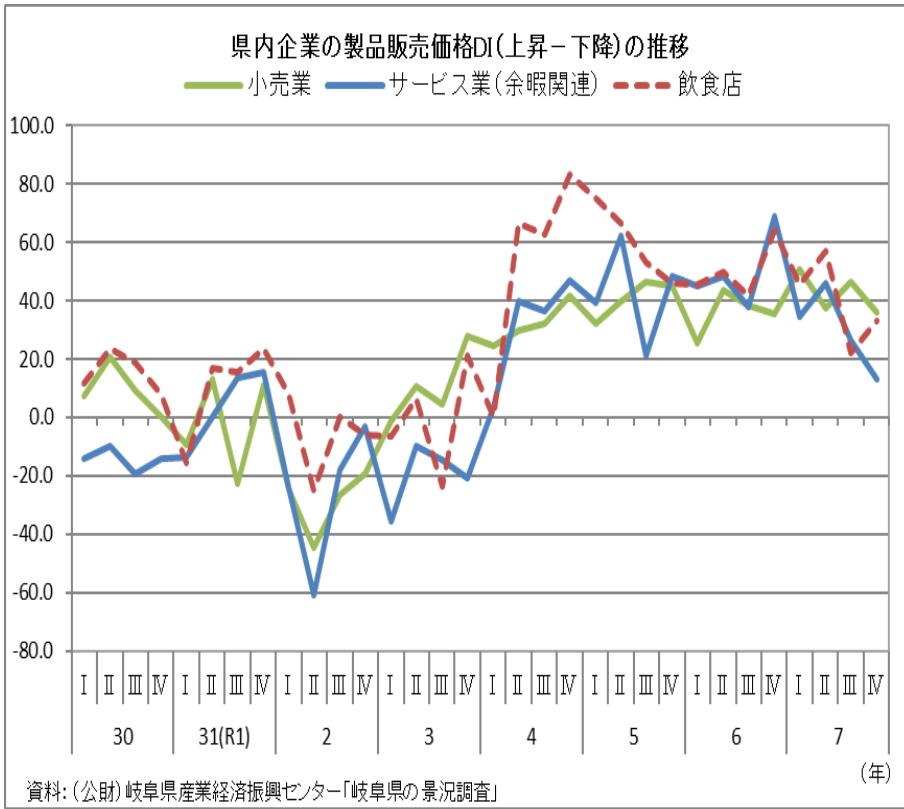
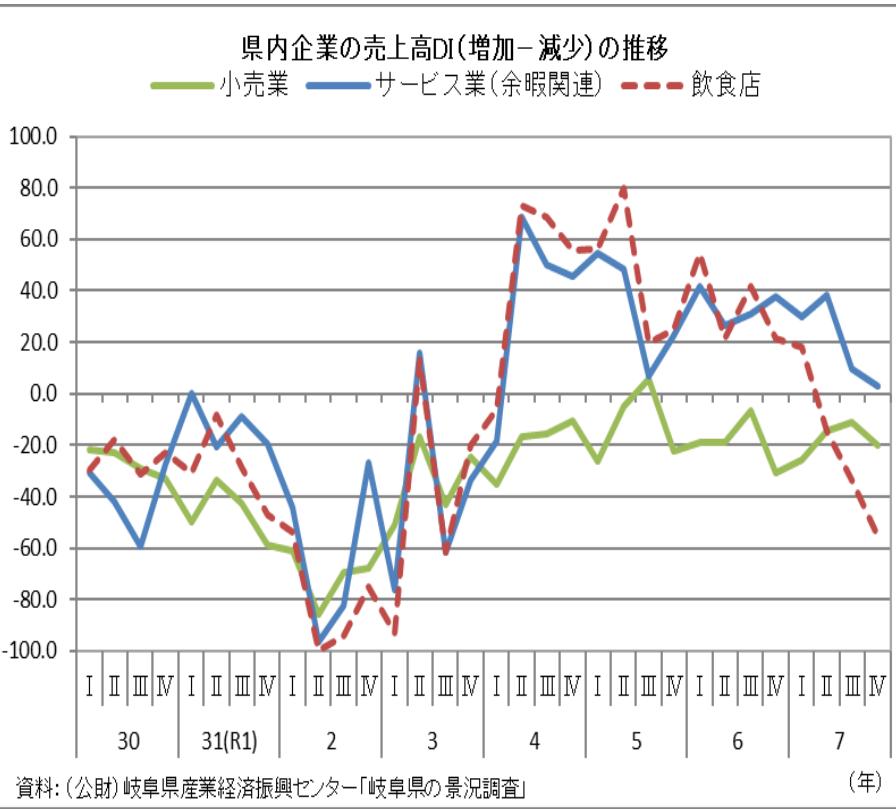
現場の動き

- ◆ シネコンの好調継続に加えて、各販促施策やイベントの連続実施により売上・客数共に大幅伸長。
- ◆ 飲料・飲食店、小売の値上げが続いているが、転嫁が十分でなく、収益が伸び悩んでいる。

(以上、県内商業施設)

個人消費(流通・小売)－2

- 10－12月期の売上高DI見通しは、飲食店で前期比▲22.2%、小売業で同▲8.9ポイント、サービス業(余暇関連)で同▲6.5ポイントとなった。
- 同じく販売価格DI見通しは、飲食店で前期比11.1ポイント上昇した一方で、サービス業(余暇関連)で同▲13.7ポイント、小売業で同▲10.5ポイントとなった。



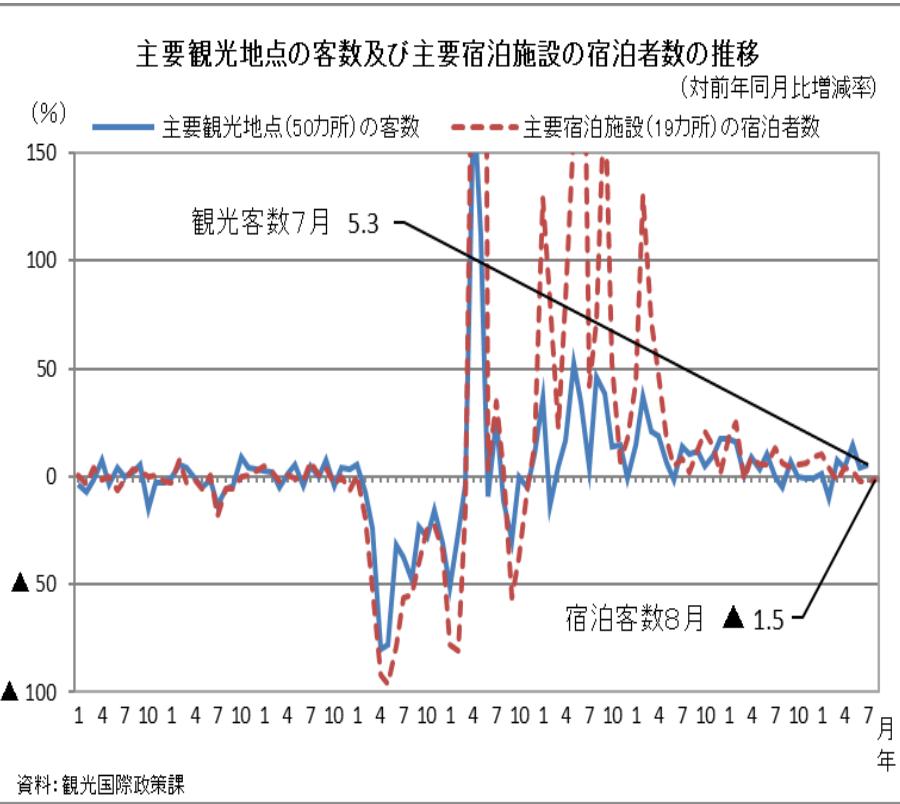
現場の動き

- ◆ 9月になっても引き続き猛暑の影響で来場者が激減。秋分の日以降、気温が下がり観光客が見られるものの動きが悪鈍く、売上が減少。(大垣市商店街)
- ◆ 米やもち米などの急激な値上がりにより特に菓子類の値上げが再度始まった。度重なる値上げで、値上がり分すべてを転嫁することが難しくなってきている。(高山市商店街)

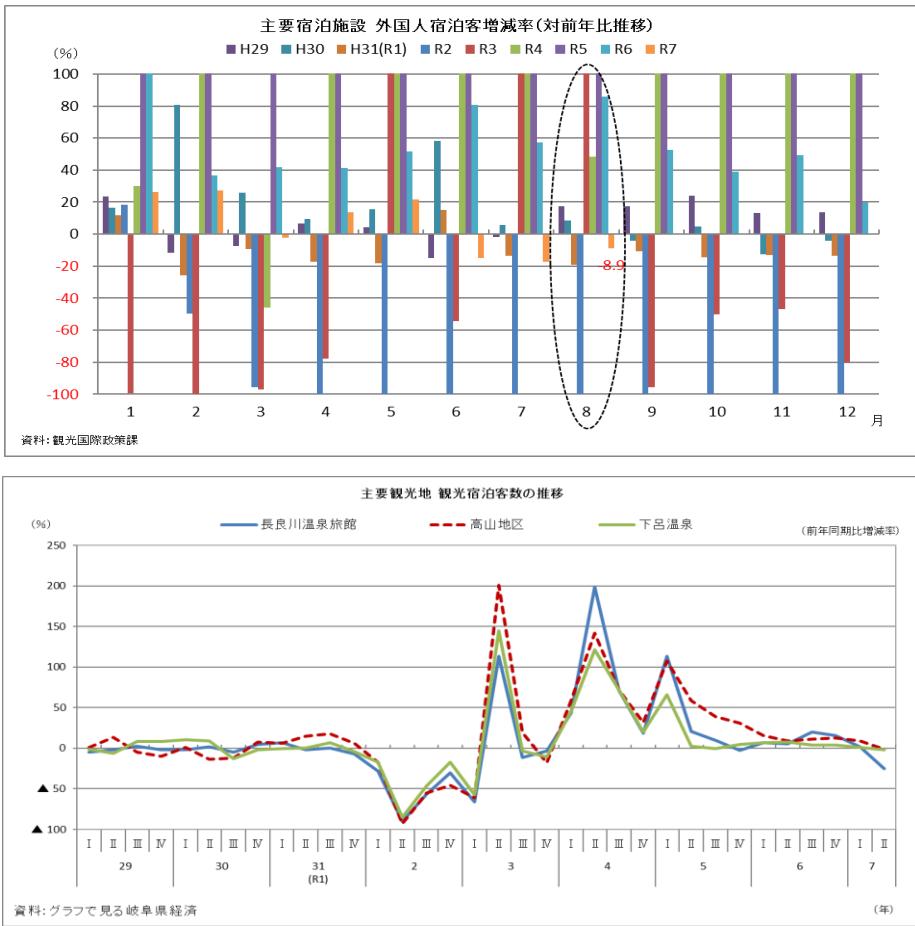
観光

○主要宿泊施設における8月の宿泊者数は、前年同月比1.5%減、令和元年同月比では、1.0%減となっている。

※主要観光地における8月の観光客数については、集計中。



○8月の主要宿泊施設における外国人宿泊者数は、コロナ前の令和元年同月比では、15.7%増となっている。

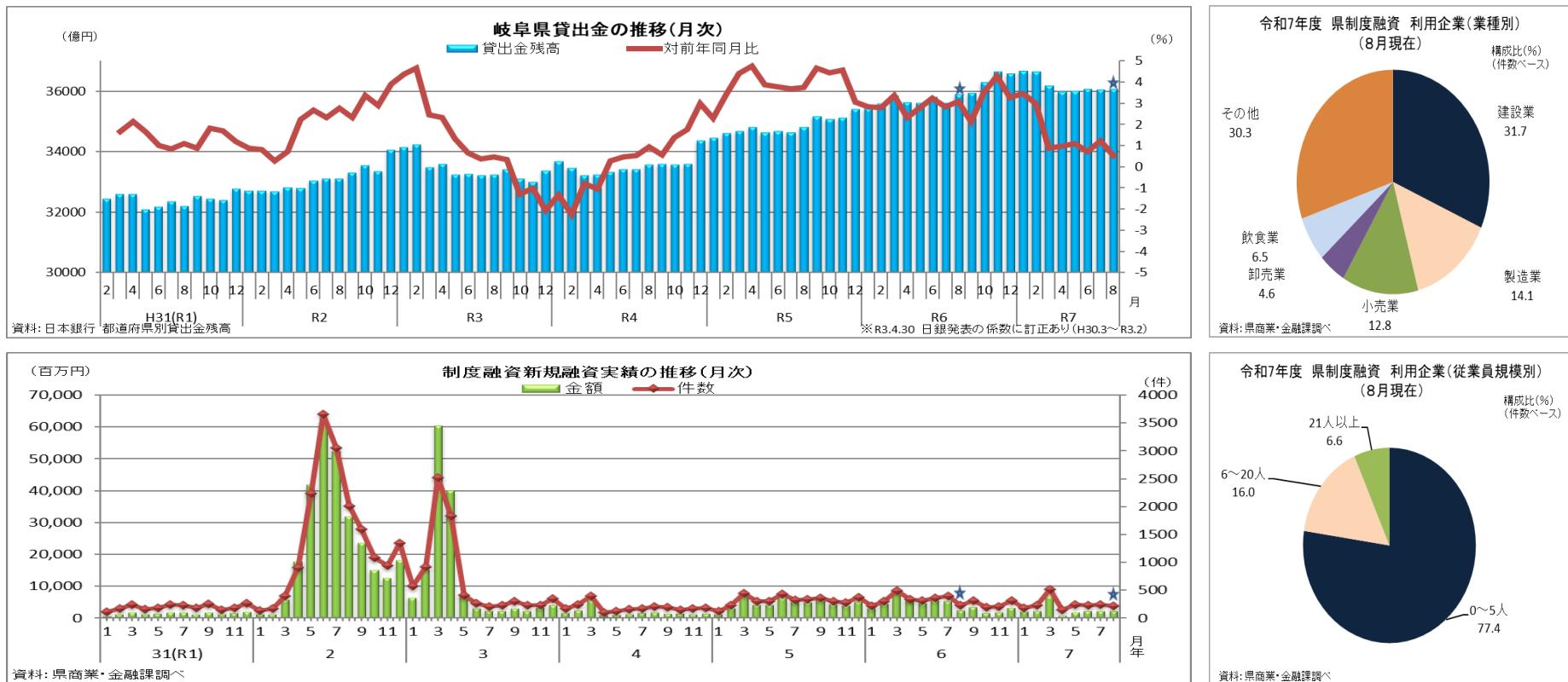


現場の動き

- ◆個人客が増えたため、客単価が上昇傾向。(岐阜市、高山市、下呂市)
- ◆人材不足が深刻化しており、日本人の人材確保が困難。(岐阜市、高山市、下呂市の宿泊施設)
- ◆原材料等の物価や仕入れ単価の高止まりが継続。(岐阜市、高山市、下呂市の宿泊施設)

資金繰り

- 8月の岐阜県貸出金残高は、3兆6,082億円で前年同月比0.5%増加し、40ヶ月連続で増加。
- 8月の制度融資実績は、金額が2,398百万円で前年同月比▲10.5%と13カ月連続で減少、件数は220件で同▲3.9%となった。
- 制度融資利用企業の従業員規模別は、5人以下の事業所が全体の77.4%を占めている。



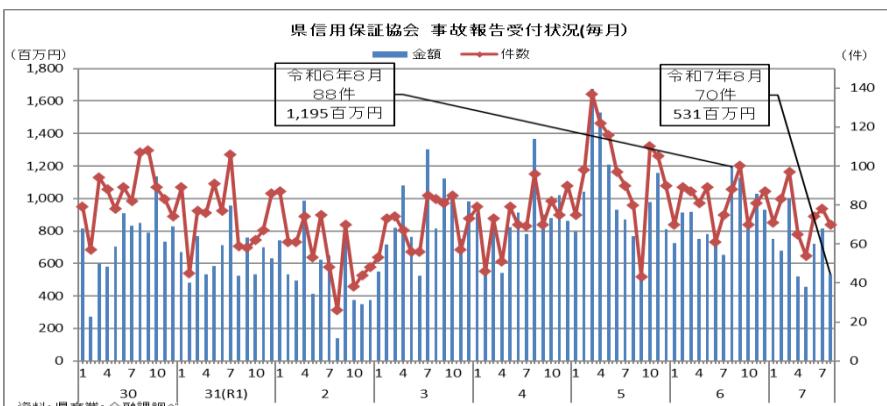
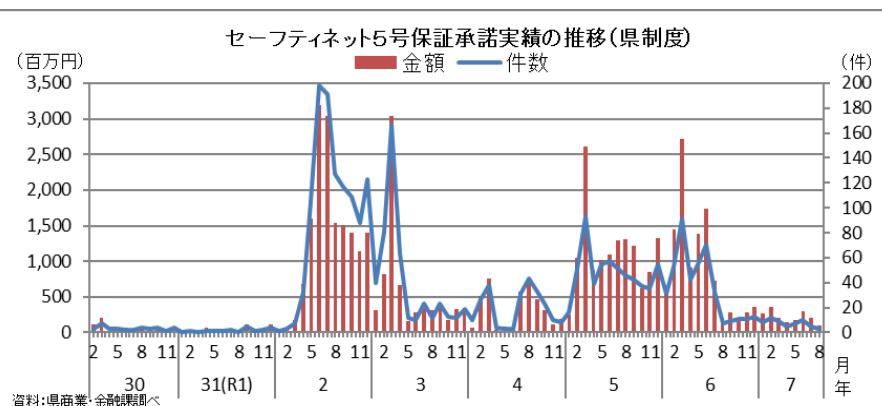
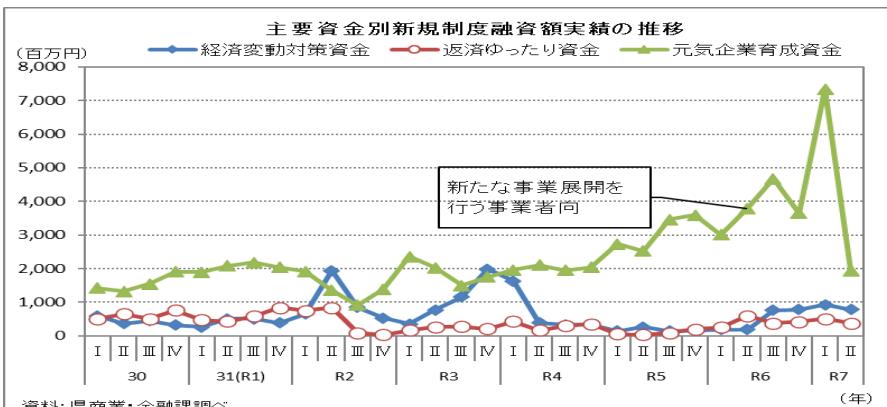
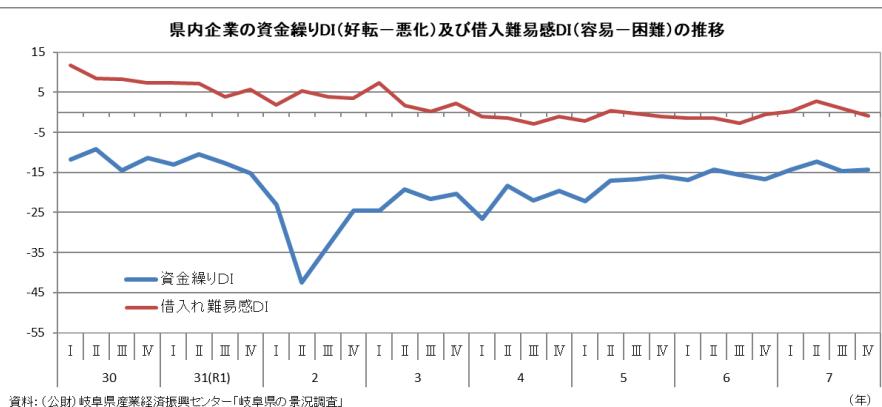
現場の動き

- ◆ 資金需要は賃上げによる人件費の高騰、物価高等の影響を受け、業種問わず運転資金のニーズが高い。
- ◆ 金利上昇局面であるが、米国関税措置やアメリカの利下げなどの影響で、若干以前より利上げについてトーンダウンしているような印象も受ける。

(以上、金融機関)

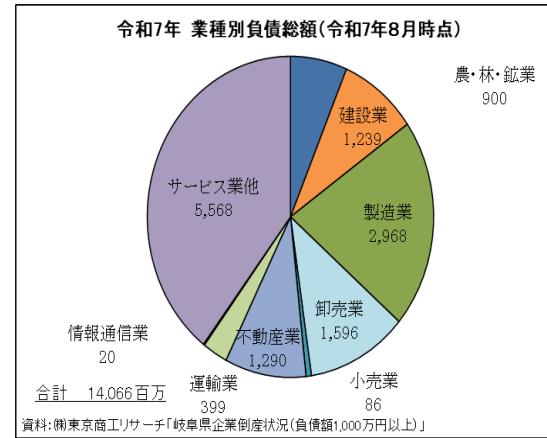
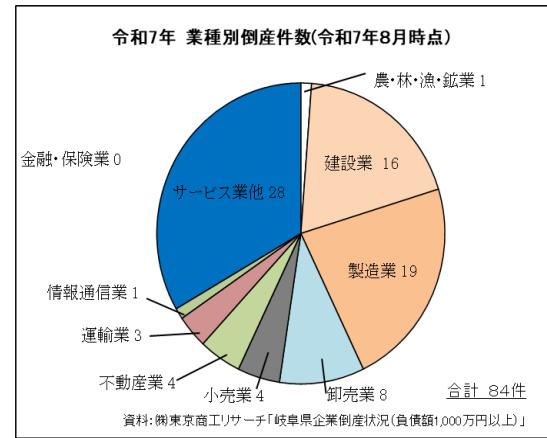
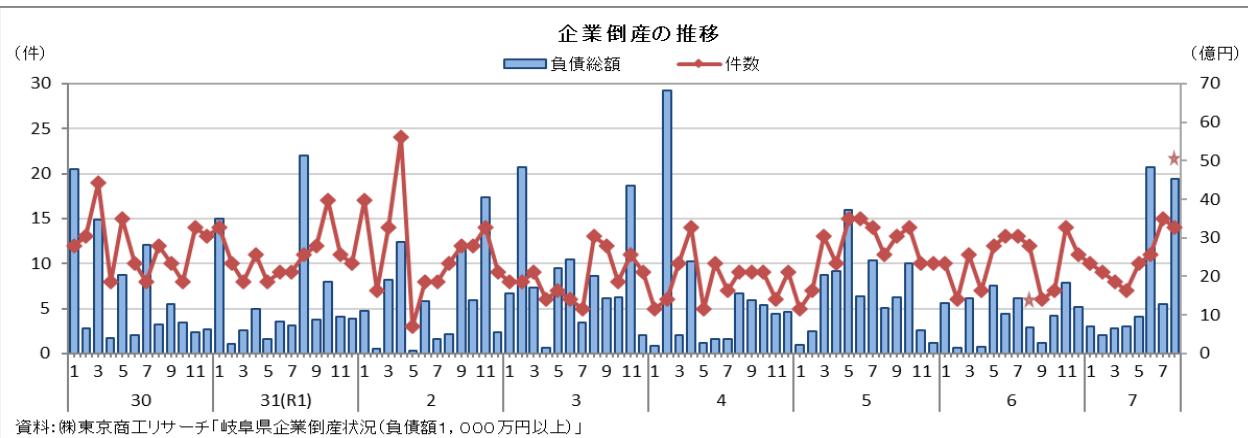
資金繰りー2

- 10-12月期の資金繰りDI見通しは▲14.4で、前期比0.3ポイント上昇となった。同借入難易感DI見通しは▲0.9で、前期比▲1.9ポイントとなった。
- 4-6月期の主要資金別新規制度融資実績は、経済変動対策資金で前年同期比314.6%増加した。一方、元気企業育成資金では同▲48.8%と13期ぶりに減少した。返済ゆったり資金でも同▲37.4%となった。
- 8月のセーフティネット5号保証承諾実績は、件数が3件で前年同月比▲57.1%、金額102百万円で同▲51.3%となった。
- 8月の事故報告(保証協会付融資3ヶ月以上延滞)状況は、件数は70件で前年同月▲20.5%、金額は531百万円で同▲55.6%となった。



倒産

- 8月単月の倒産件数は14件、負債総額は前月比3,263百万円増加の4,535百万円となった。
- 令和6年8月は負債総額1億円以上の倒産が1件発生したのに対して、令和7年8月は同倒産9件となった。負債総額は前年同月比3,905百万円増加となった。



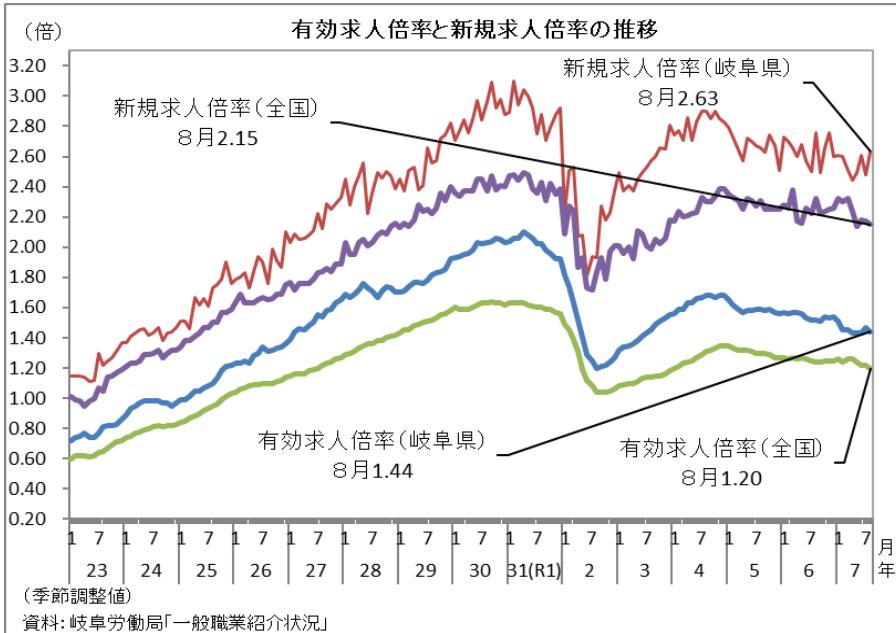
専門機関の分析(東京商工リサーチ・9月18日時点)

- ◆新型コロナウイルス禍から始まった物価上昇局面で当初は円相場の下落に伴う輸入物価の上昇が高騰に影響していたが、現在は人件費や物流費等の転換に変わってきている。中部地区経済を支える自動車産業については大規模な減産体制にシフトした場合は、協力会社、関連する他産業への影響は必至と見られる。また、各国への相互関税を発動した米国は分野別関税に軸足を移しており、警戒を緩めることはできない。

雇用

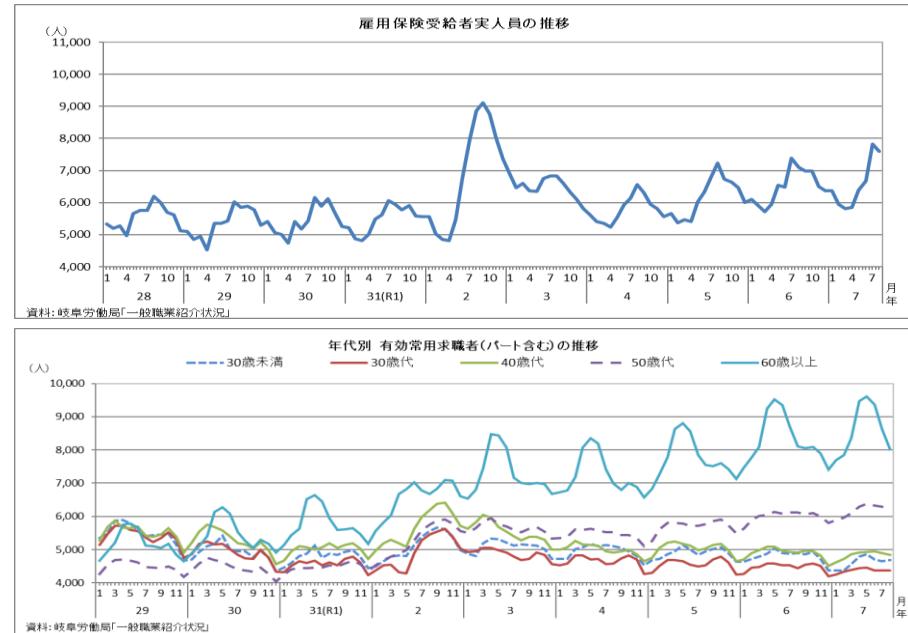
○8月の有効求人倍率は1.44倍と、前月比
▲0.03ポイントとなった。

○8月の新規求人倍率は2.63倍と、前月比0.15ポイント上昇となった。



○8月の雇用保険受給者人員は、前月比
▲3.0%となった。

○有効常用求職者は、50歳代では30ヶ月連續で上昇、60歳代では2ヶ月連續で下降した。



現場の動き

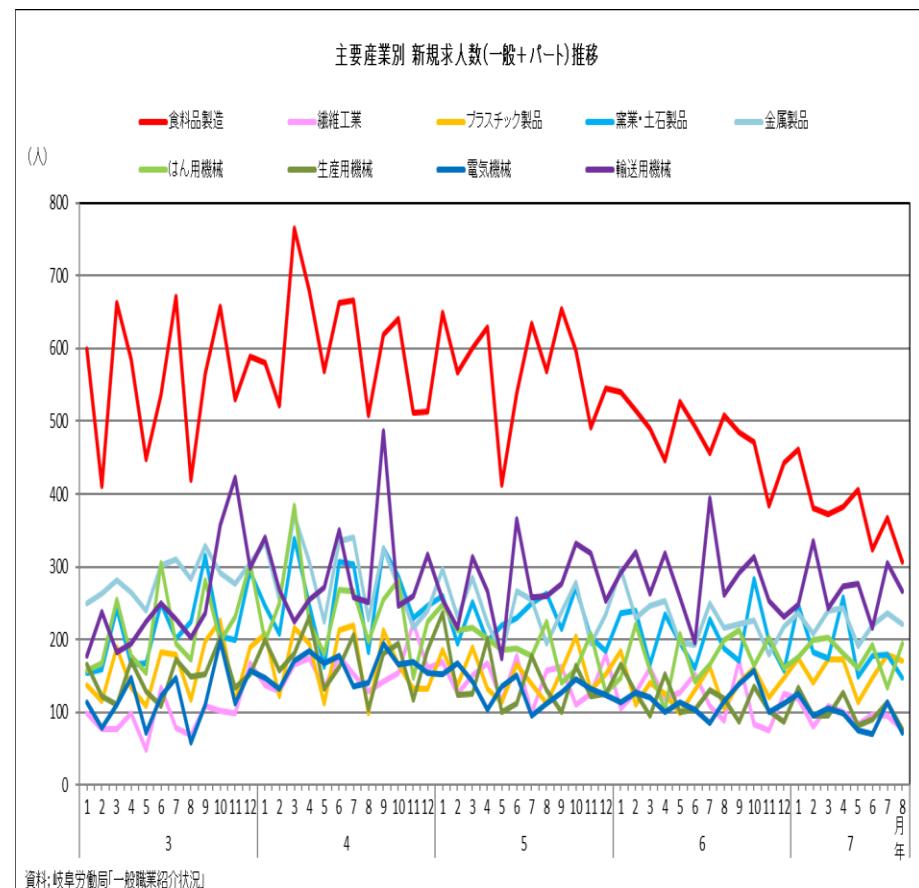
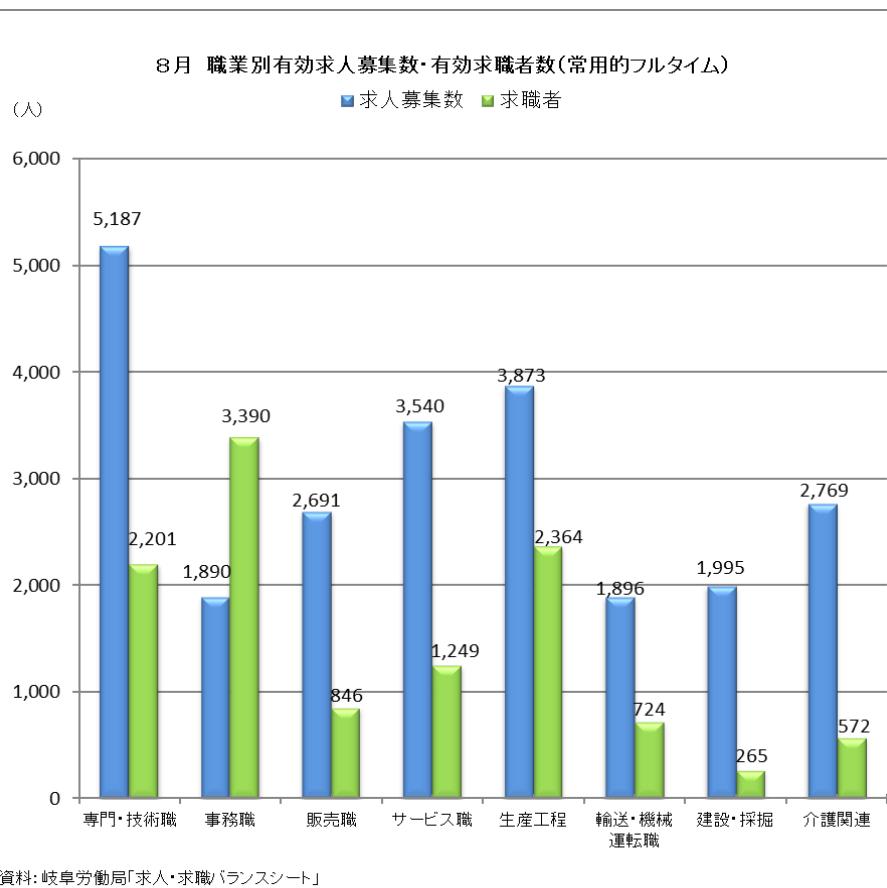
- ◆ 近年の企業選定動向では、年間休日が120日ないとその時点で見向きもされなくなることが多いため、来年度からは年間休日を120日に変更する方向で検討している。(輸送用機械)
 - ◆ 大学卒の人材については、毎年厳しくなっている状況で、内定は出すものの入社してもらえるまでには至らないことが多い。(輸送用機械)
 - ◆ 高校卒業の新入社員の給料を4月から5%上げたのだが、今回の賃上げでパートの差があまりない状態になるので、また5%程度賃上げしなければならないのではないかと考えている。(輸送用機械)
 - ◆ 会社全体で3%、若い社員に限れば最大20%の賃上げを行ったため、ベテランと若手の給与差が縮まっている。経験が必要な業務に手当を設けるなど、社員のモチベーション維持の対策を講じている。(非鉄金属)

雇用(職業別)

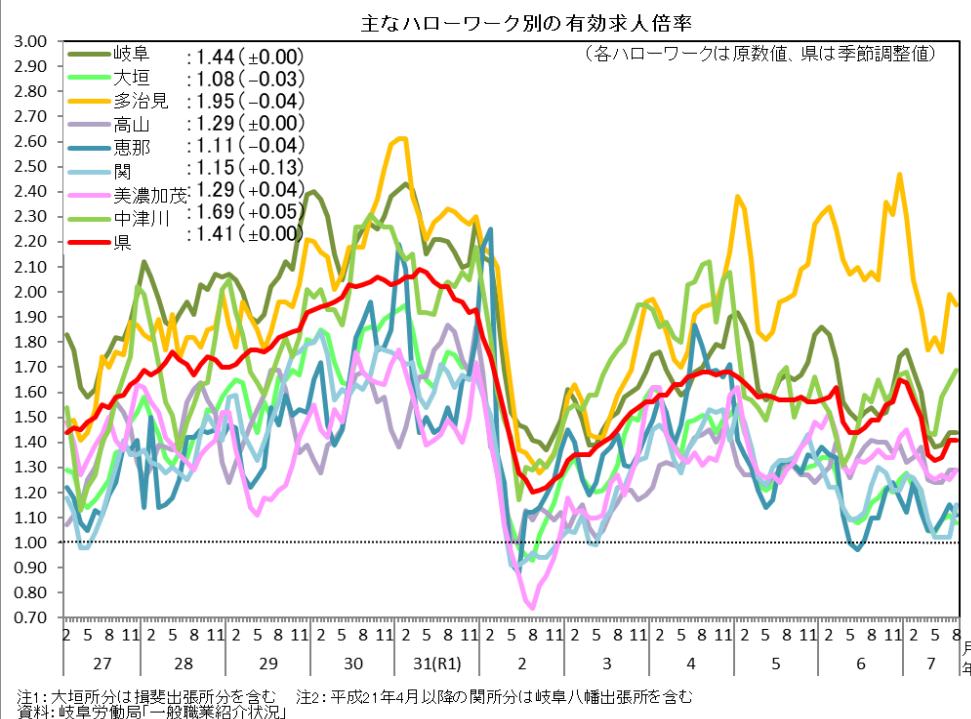
○有効求人倍率は、建設・採掘で7.53倍、介護関連で4.84倍、販売職で3.18倍、サービス職で2.83倍など、引き続き人手不足の状況は続いている。

○一方で、事務職の有効求人倍率は0.56倍に留まり、求職者のニーズと、求人側のニーズのミスマッチが続いている。

○8月の主要産業別の新規求人数は、プラスチック製品で前年同月比62.9%、金属製品で同2.8%、輸送機械で同1.9%増加した一方で、食料品製造で同▲39.7%、電気機械で同▲37.4%、生産用機械で同▲34.7%、窯業・土石で同▲21.4%、繊維工業で同▲13.5%、はん用で同▲2.5%となった。



雇用(地域別)



○8月の主なハローワーク別の有効求人倍率は、関、美濃加茂、中津川で前月比増加となった。

現場の動き(前月比)

<ハローワーク岐阜>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク大垣>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク多治見>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数はやや増加。

<ハローワーク高山>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は増加。

<ハローワーク恵那>

- ◆求人者数はやや減少、求職者数は減少。
- ◆雇用保険受給者数は減少。

<ハローワーク関>

- ◆求人者数、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク美濃加茂>

- ◆求人者数は横ばい、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<ハローワーク中津川>

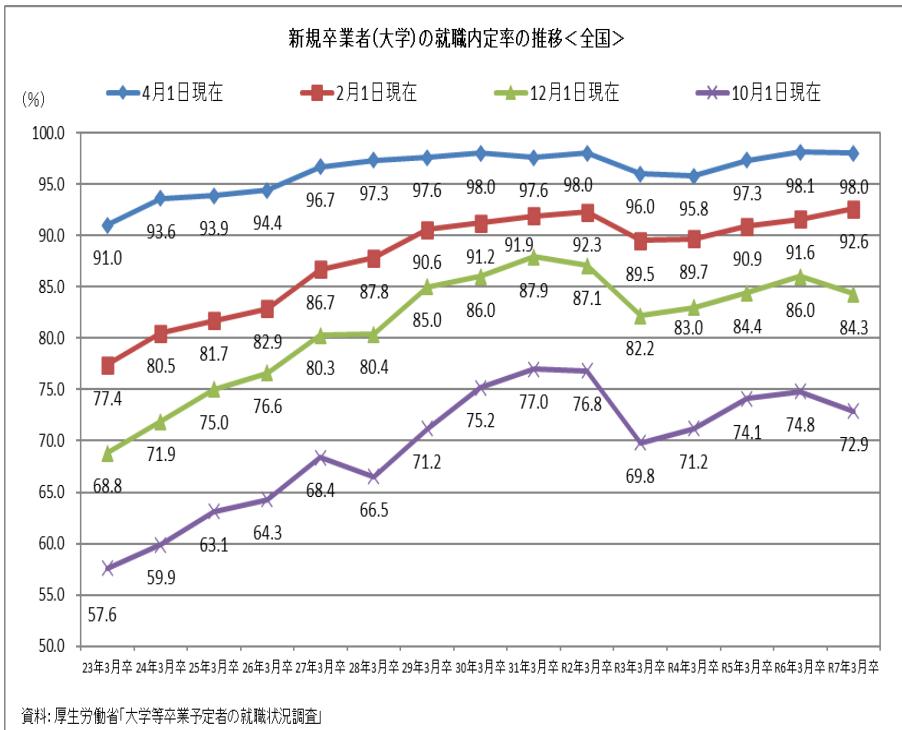
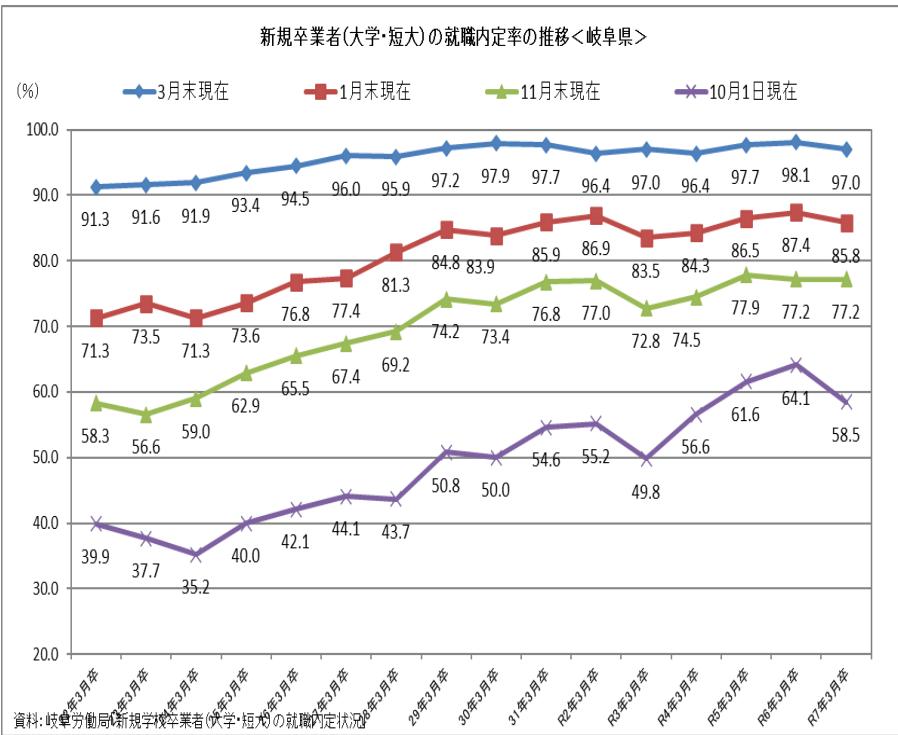
- ◆求人者数は減少、求職者数は増加。
- ◆雇用保険受給者数は横ばい。

<窓口の様子>※前月比

- ◆岐阜、高山、関、美濃加茂で混雑している、大垣、中津川でやや混雑している、多治見、恵那でやや空いている状況。

雇用(大学・短大新卒者の就職)

- 岐阜県の令和7年3月末現在の大学・短大卒業者(令和7年3月卒業)の就職内定率は、97.0%であり、前年同時点と比べ0.4ポイント上昇した。
- 全国の令和7年3月1日現在の大学卒業者(令和7年3月卒業)内定率は98.0%であり、前年同時点と比べ1.5ポイント上昇した。



現場の動き(2026卒、2027卒の動きなど)

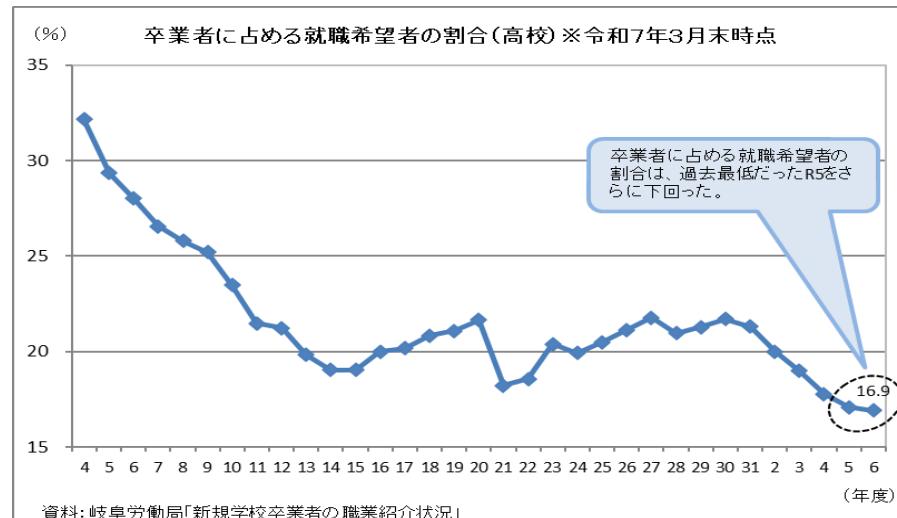
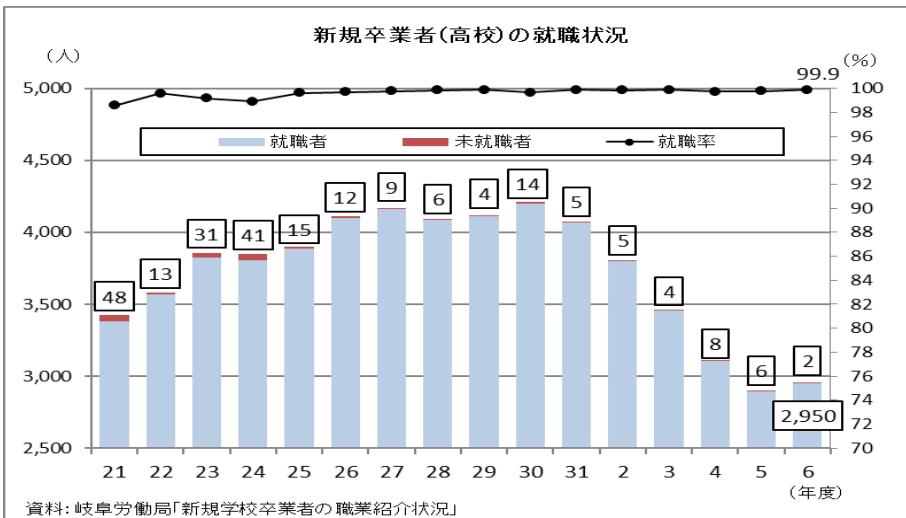
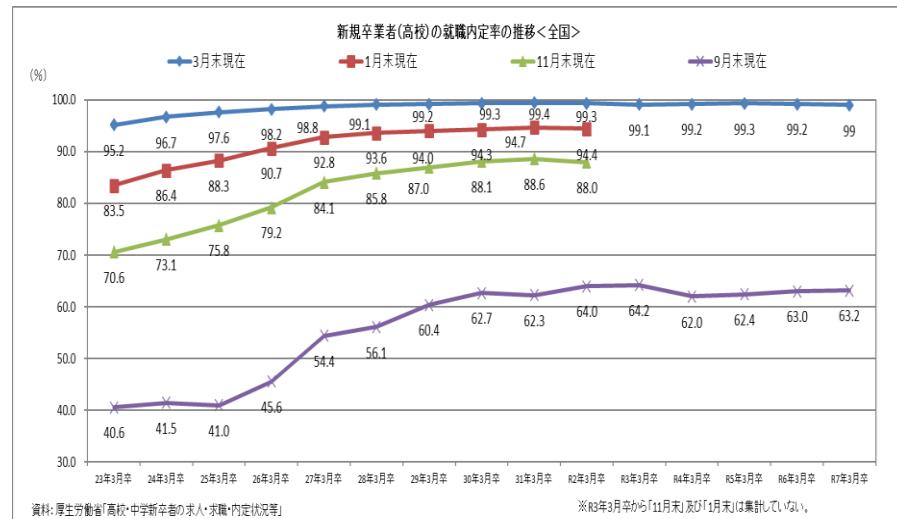
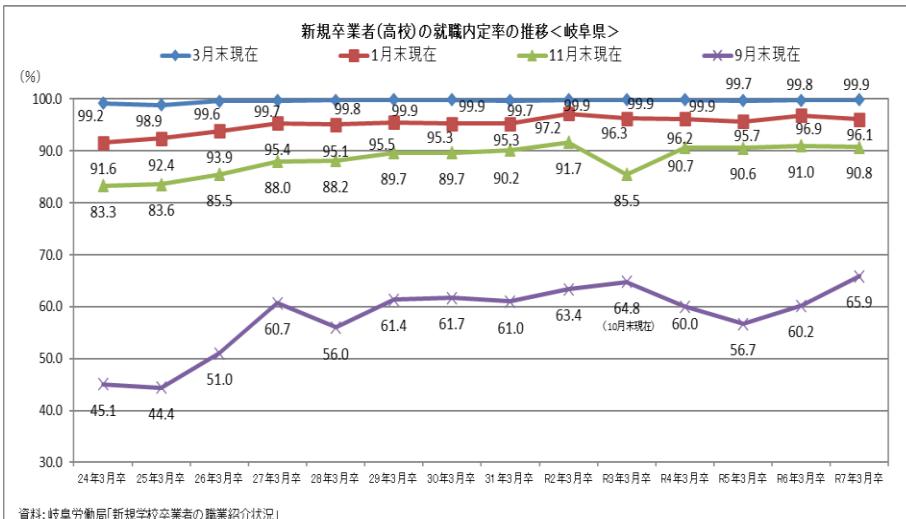
<大学へのヒアリング>

- ◆ 26年卒からの相談は少ない。就職活動の進んでいない学生に対して、電話等で支援を行っている。
- ◆ 27年卒からの相談は増加してきた。夏休みのインターンシップやオープンカンパニーを終え、今後の方針を相談に来る学生が増えている。

(以上、岐阜・愛知県内大学)

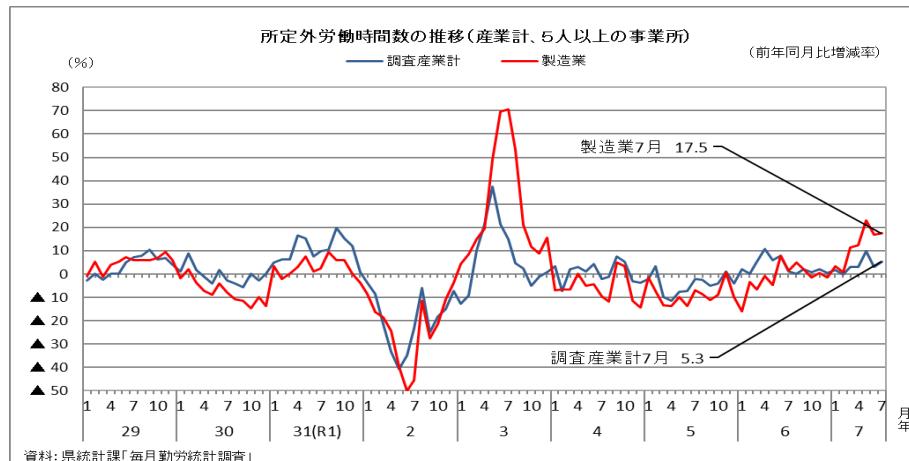
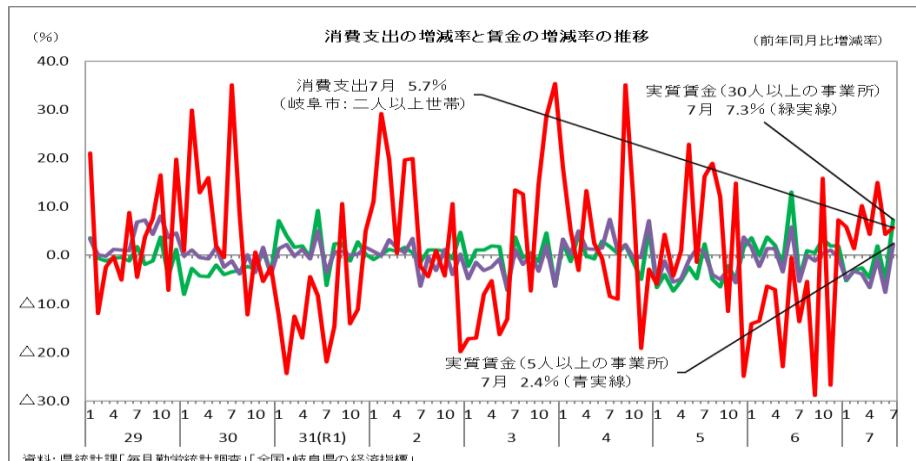
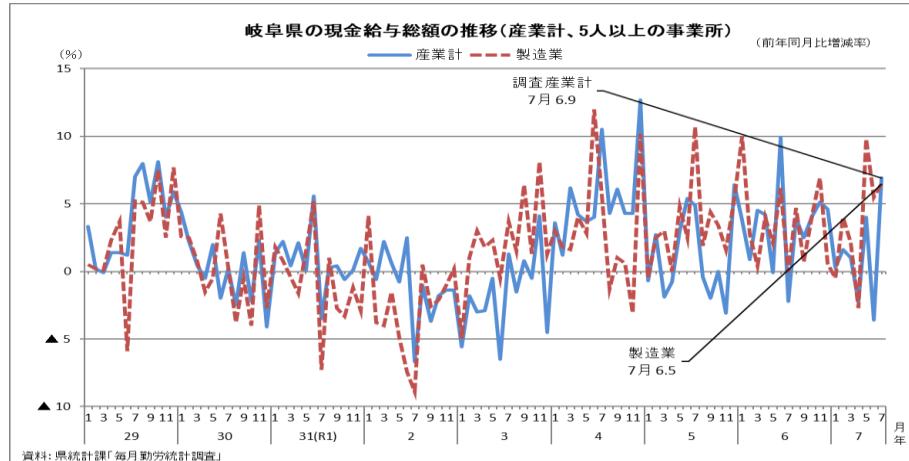
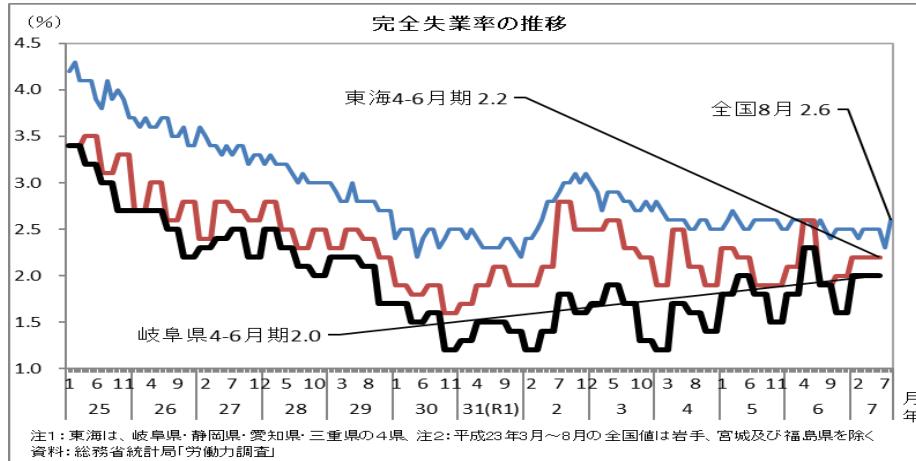
雇用(高校新卒者の就職)

- 岐阜県の令和7年3月末現在の高校卒業者(令和7年3月卒業)の就職内定率は99.9%であり、前年同時点と比べ0.1ポイント上昇した。
- 全国の令和7年3月末時点の高校卒業者(令和7年3月卒業)の就職内定率は99.0%であり、前年同時点と比べ▲0.2ポイントとなった。



雇用(完全失業率等)

- 全国の8月の完全失業率は2.6%で前月比0.3%上昇となった。岐阜県の4-6月期の平均は2.0%で前期比同率となった。
 - 7月の現金給与総額は、調査産業計で前年同月比6.9%、製造業で同6.5%増加となった。
 - 7月の実質賃金増減率は、30人以上の事業所で前年同月比7.3%、5人以上で2.4%増加となつた。6月の消費支出については同5.7%増加となった。
 - 7月の所定外労働時間数は前年同月比で5.3%増加となった。



<経済・雇用の現状（総括）>

- 製造業は、7月の鉱工業生産指数は前月比5.2%上昇となった。ヒアリングでは、昨年度の値上げ分が売上に計上されたため増益となり、引き続き緩やかな上昇傾向にあるとの声が聞かれる一方で、中国向けの出荷減少が続いていること、10~11月は更に売上を落とすとの声が聞かれた。
- 地場産業は、7月の鉱工業生産指数は、食料品、木材・木製品、繊維工業、家具で下降した。ヒアリングでは、国内需要は減りつつあるが、インバウンド需要の高まりや海外輸出の増加が続き、売上としてはほぼ横ばいとの声が聞かれる一方で、小売店が少なくなってきたことから卸先が減り、売上が減少していることに加え、円安の影響で原材料が高騰し利益を圧迫しているとの声が聞かれた。
- 設備投資は、8月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比8.1%増加となった。ヒアリングでは、コロナ期に先送りした各種保守や機材更新について待ったなしとなっているものが多く、限られた予算の中でどこまで出来るのかが課題との声が聞かれた。
- 個人消費は、8月の販売額は、全体で前年同月比0.1%増加となった。ヒアリングでは、飲料・飲食店、小売の値上げが続いているが、転嫁が十分でなく、収益が伸び悩んでいるとの声や、9月になっても引き続き猛暑の影響で来場者が激減しており、秋分の日以降は気温が下がり観光客が見られるものの動きが鈍いとの声が聞かれた。
- 観光は、宿泊者数は、前年同月と比較しマイナスになったものの、コロナ前の約9割まで戻ってきている。宿泊施設からのヒアリングでは、人手不足に苦慮しているとの声が多くあり、外国人人材を活用する施設もあった。
- 企業の資金繰りは、8月の制度融資実績は金額で13ヶ月連続で減少となった。金利上昇局面であるが、米国関税措置やアメリカの利下げなどの影響で、若干以前より利上げについてトーンダウンしているような印象も受けるとの声が聞かれた。
- 雇用面は、8月の有効求人倍率は1.44倍と前月比▲0.03ポイントとなった。ヒアリングでは、採用面については、大学卒の人材については、毎年厳しくなっている状況で、内定は出すものの入社してもらえるまでには至らないことが多いとの声が聞かれた。待遇面については、高校卒業の新入社員の給料を4月から5%上げたのだが、今回の賃上げでパートの差があまりない状態になるので、また5%程度賃上げしなければならないのではないかと考えているとの声が聞かれた。